

第 37 話 2012 年 6 月 10 日（日）

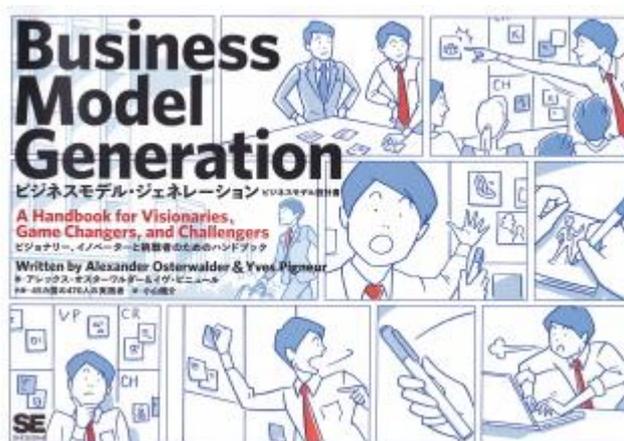
VCPC 年次活動報告とアジャイルプロジェクトマネジメント

5 月 29 日（火）午後 VCPC（Value Chain Process Council）主催のバリューチェーンセミナー日本 2012「<http://vcpc.org/modules/eguide/event.php?eid=14>」に出席した。

私はこの 1 年 VCPC の営業プロセス WG（ワーキンググループ）に参加してきたが、このメンバーを代表して三井化学の五代さんがこの WG の活動報告を発表された。ちょうど会場で同じ WG の島田さん（三菱総研）と同席することができ、今日の活動報告で来年度この WG は「ビジネスプロセス開発のモデル研究 WG」（仮称）となるようだが、面白いテーマで活動できそうですね！と会話を交わした。

後日になるが、島田さんから“ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書”（アレックス・オスターワルダー&イヴ・ビニユール著、翔泳社）を紹介して頂いたが、共著が 45 か国、470 人の実践者というスケールの大きな本である。

これから 1 年の活動が楽しみだ。



6 月 1 日（金）午後 FXLI（富士ゼロックス総合教育研究所）主催のアジャイルプロジェクトマネジメントセミナーに参加した。講師は ESI インターナショナル社の Glenn.R.Brule 氏、4 年前の来日時は IIBA のディレクターとして BABOK を日本に紹介した人だそうだ。

彼のプレゼンの冒頭に 1986 年にハーバードビジネスレビュー誌に投稿された論文“新商品開発ゲーム”（竹内宏高、野中郁次郎）の紹介があった。この英文を記録に残したい。

In 1986, the Harvard Business Review published an article authored by Hiroataka Takeuchi and Ikujiro Nonaka titled “The New Product Development Game”.

The article made several reference to what would eventually the backbone upon which the Agile Manifesto grew.

The article cited that anticipation and even encouragement of **changing requirements, self-organizing team, integrated development phases, all-stakeholder collaboration and decentralizing control** were key success factors in developing personal computers, the inkjet printers, motorcycles and the automobiles.

アジャイルはフレームワークであり、メソッドではない！アジャイルはフィロソフィだと Glenn 氏は強調する。このセミナー内容については次回の KIT-BPI 研で報告したい。

つづく